

# ABA 発達支援教室 みらい Kids & Sports

## ABA(応用行動分析)の早期療育に特化した みらい Kids

『みらい』の療育は ABA(応用行動分析)の理論で以下のように進めていきます。

### 1. ラポール(信頼関係)の形成をします。(不安の強いお子様への対応)

\*母子分離が難しいお子さまは、同室して頂いて横で見守っていただきます。

(場合によっては保護者様の膝の上で行うこともあります。)

\*机上での DTT トレーニングが難しい場合は、PRT トレーニングに切り替えます。

### 2. アイコンタクトの習慣化をします。

\*興味ある物、見て欲しい物の先には常にセラピストの視線があります。

(自発的なアイコンタクトを待つ=呼名の場面、遊びの場面、要求の場面等)

### 3. 指示(コンプライアンス)とアイコンタクトの連動

\*各プログラムの開始時、終了時

### 4. 音声模倣時の誤学習を防止

\*エコラリア(反響言語=おうむ返し)による間違った音声模倣を避けるため、セラピストは発言者として言葉を伝え、エコラリアにならないように必要な事しか言いません。



言者として言葉を

### 5. 『行動レパートリーを増やす』という考え方

\*できることを増やします。(言語スキル・認知スキル・社会的スキル・アカデミックスキル・運動能力)

### 6. スモールステップで成功体験を積み上げます

\*トークンエコノミーシステム(ご褒美)

\*エラーレスラーニング(失敗をさせない学習)

\*25%ルール(100%できてから褒めるのではなく、小さな成功を褒める)

### 7. マンド(要求言語)トレーニングで他児とのトラブルの防止

\*「ちょうだい」「かして」「いいよ」「まって」「いや」などの要求言語獲得を最優先

### 8. 個別療育で培った力を小集団療育で般化させる(個別とグループのある『みらい Kids & Sports』でも可能です。)

\*般化とは、簡単に説明すると一度学んだことを他の(場所・人・物・場面)でも応用できるようにすることです。

\*個別から小集団療育で般化できたことを、園や学校などの大きな集団で応用することは、ABA 療育の Small Step の考え方です。



### 9. 『みらい』の個別療育はお子さまお一人に2人の支援者(ABA セラピスト・保育士)

\*セラピストがお子さまに向き合い、もう一人が記録と役割分担しています。セラピストは課題の提示と強化、もう一人は行動や様子を詳細に記録することやお子さまの姿勢や課題へのプロンプトをします。他では真似のできない取り組みですが、みらいではずっとこの考え方で支援しています。(プロンプト⇒手助け、補助的刺激)

## ご利用案内

みらい Kids

ABA 発達支援教室 各時間帯 1名の完全個別療育です



午前の部 9:00~10:00 10:00~11:00 11:00~12:00

午後の部 13:00~14:00 14:00~15:00

## DCDに特化した みらい Sports (コーディネーショントレーニング)

### お子さまのこんなことが気になりませんか

体の動きがぎこちなく極端に運動が苦手だったり、不器用なため、工作したり、道具を使ったりすることが苦手だったり。そんな子たちは、もしかしたら発達障がいの一つである DCD(発達性協調運動症)があるかもしれません。

たくさん練習してもみんなと同じようにできないのは、保護者の皆さんにとっても心配なことです。でも子ども達はそれ以上に、人知れず大変な苦勞をしています。なかには苦手意識が強くなり、運動そのものが嫌になってしまったり、運動会を嫌がったり、体を動かすことに抵抗感を示すような子もいます。

子ども達は体を動かし、運動をすることにより、自分の身体をコントロールする方法(運動能力)を身に付けていきます。運動不足は運動能力をはぐくむ機会を失わせるだけではなく、肥満の原因になるさまざまな悪循環を招きます。

### 発達性協調運動症って何

「よく転ぶ」「上手に走れない」など身体を動かすことが極端に苦手だったり、「靴ひもが結べない」「ハサミでスムーズに切れない」など、人並み外れて不器用だったりする子が、小学校のクラスには居ませんでしたか？ 昔は他の発達障がいと同じように、親のしつけや本人の努力不足、練習不足などと思われていましたが、実は生まれつきの特性によるものかもしれないことが明らかになってきました。

赤ちゃんの頃から「ミルクを飲むときにむせる」「寝返りができない」「はいはいがぎこちない」「座っていると姿勢が崩れる」「歩き始めが遅い」などの兆候は見られます。(原始反射の残存なども考えられます)

保育園や幼稚園に通うようになると、他の子と比べて明らかな不器用さや運動の苦手さが目立つようになります。そうした特性により日常生活が著しく妨げられている場合のみ、DCD の診断が下されます。

- ・ボタンをかけられない。ひとりで着替えられない。
- ・動作がぎこちない。走り方が不自然。
- ・コップからうまく水が飲めない。スプーンがうまく使えない
- ・ブランコがこげない。ボール遊びに参加できない
- ・お絵描きや塗り絵が苦手。ひらがながうまく書けない。



### 協調運動って

例えば、縄跳びは、手で縄を回しながらタイミングに合わせて足でジャンプします。ボールをキャッチする場合は、目でボールを追いながら位置を確認し、手を動かします。ボタンをかけるときも、目でボタンホールを確認しながら、手でボタンをかけます。このように協調運動は手と足、目と手など、体の複数の箇所を同時に使う動作です。何気ない動作でもスムーズにこなすためには、私たちは自分の体と対象との距離を確認したり、手足をバラバラに動かしたり、バランスを取ったり、力の加減を調節したり、動くタイミングを図ったり、いくつかの情報をコーディネートしながら動いています。DCD のお子さまにはそれが難しいのです。

### どんなトレーニングをするの ⇒ コーディネーショントレーニングをします(発達支援コーチング)

「粗大運動(ボールを投げる・跳ぶなどの身体を大きく動かす運動)」と「微細運動(お手玉やジャグリングなど目と手の同時操作する運動)をします。DCD の子の場合、粗大運動や微細運動での「協調運動(目と手など、体の複数の箇所を連動させて行う動作)」が苦手なのです。

### ご利用案内

#### みらい Spots DCDトレーニング教室(コーディネーショントレーニング)



下記の各時間帯 1対1での DCD のための完全個別プログラムによるトレーニング支援  
午後の部 15:00~16:00 16:00~17:00 (最大2名になる場合があります)